

# 令和4年度 事業報告書

公益財団法人日本博物館協会

## 1 博物館の普及啓発に関する事業

### (1) 月刊誌「博物館研究」の発行

博物館関係者を主な対象に、博物館の振興に必要な情報を提供し、その普及を図ることを目的として、博物館の総合研究情報誌である月刊誌「博物館研究」を発行している。内容は、博物館の取り組むべき特集テーマに関する論文・事例、調査研究成果、博物館に関する投稿論文、海外博物館情報、各博物館の所蔵品、全国博物館の展覧会、教育普及活動、国の文化・文化財・社会教育施設に関する施策等である。企画編集委員によるテーマ・執筆者の選定を行うとともに、掲載論文等の査読を行っている。

令和4年度の発行状況は次のとおりである。発行部数は、各号2,000部、頁数は60頁で会員館等には無料で配布し、会員館等以外の者には実費相当額の1冊1,200円（消費税別）で配布した。

＜各号の特集のテーマ＞

- 4月号「令和3年度博物館園数関連統計」
- 5月号「令和4年度新館紹介」
- 6月号「これからの博物館制度を考える―改正博物館法の成立を踏まえて」
- 7月号「解説ツールとしてのマンガ」
- 8月号「古文書資料の活用」
- 9月号「ミュージアムグッズのいま」
- 10月号「博物館を支える人々」
- 11月号「博物館における調査研究のいま」
- 12月号「ジェンダーと博物館」
  - 1月号「これからの博物館ネットワーク」
  - 2月号「SDGsと向き合う博物館」
  - 3月号「第70回全国博物館大会報告」

### (2) 第70回全国博物館大会の開催

館種や設置者の異なる全国の博物館関係者が一堂に会し、博物館の直面する課題である博物館の地域社会とのかかわり、魅力的な展示や教育普及活動の在り方、効果的な広報や情報の受発信等に関する最近の調査研究の内容や各博物館での取組等について情報交換・意見交換・討議を行い、博物館の充実・振興を図ることを目的に、全国博物館大会を実施している。

第70回全国博物館大会は、令和4年11月16日～18日の3日間、高知県高知市にある高知県立県民文化ホール グリーンホールを主会場に、高知県立人権啓発センター並びにオーテピアを副会場として、全国から約400名の博物館関係者が参加して開催された。新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が減少傾向にある中での大会開催となったが、会場の入場人数に制限を設けるなど、感染症対策に向けた万全の態勢を整えた。なお、大会に参加できなかった博物館関係者のために、当日の大会の様相を録画し、後日 YouTube での配信を行った。また、大会最終日の11月18日には、昨年中止となったエクスカージョンを実施。3つのコースを準備し、約

110 人が高知県内の博物館関連施設等を視察した。

- 主 催 公益財団法人日本博物館協会  
共 催 こうちミュージアムネットワーク  
後 援 文化庁、高知県、高知県教育委員会、高知市、高知市教育委員会  
特別協力 高知商工会議所  
協 賛 株式会社乃村工藝社  
株式会社丹青社  
株式会社トータルメディア開発研究所  
東京海上日動火災保険株式会社
- 会 期 令和4年11月16日(水)～11月18日(金)3日間  
会 場 高知県立県民文化ホールグリーンホール、高知県立人権啓発センター6階ホール及びオーテピア4階
- 参 加 者 約400名  
大会テーマ 「地域から発信する博物館の未来」  
表 彰 顕彰：59名  
永年勤続者56名、特別表彰 3名  
棚橋賞：1名 博物館活動奨励賞：2名  
日本博物館協会賞(第3回) 1館
- 基調講演 「日本列島の自然と変動帯の文化」  
講師 静岡県公立大学法人理事長兼静岡県立大学学長 尾池和夫  
全国博物館フォーラム「地域の視点から考える博物館政策～」  
講師 文化庁博物館振興室博物館支援調査官 中尾 智行  
講師 こうちミュージアムネットワーク会長・高知市立自由民権記念館館長 筒井 秀一  
司会 日本博物館協会専務理事 半田 昌之
- 新プログラム (会場：高知県立高知城歴史博物館)  
・北ステージ 蓮池太刀踊り  
・館 内 フラフ展示、名刺交換会、観光ビデオ、お土産プレゼント他

分科会1「連携・新たな博物館連携の可能性」

コーディネーター：

岡田直樹（高知みらい科学館学芸員）

講師：藤川和美（高知県立牧野植物園植物研究課長兼研究員）

講師：渡部 淳（高知県立高知城歴史博物館長）

講師：宮地竹史（高知県香美市観光大使）

講師：佐久間大輔（大阪市立自然史博物館学芸課長）

分科会2「保存と活用・文化行政の課題克服と文化資源の活用」

コーディネーター：

楠瀬慶太（高知地域資料保存ネットワーク事務局）

講師：田村公利（土佐清水市教育委員会事務局 生涯学習課市史編さん室長）

講師：塚本麻莉（高知県立美術館主任学芸員）

講師：谷地森秀二（越知町立横倉山自然の森博物館学芸員）

講師：大河内智之（奈良大学准教授）

分科会3「運営・挑戦する地域の文化施設」

コーディネーター：

田所菜穂子（横山隆一記念まんが館長）

講師：若月元樹（むろと廃校水族館長）

講師：川村慎也（四万十市郷土博物館 四万十市教育委員会生涯学習課社会教育  
振興係長）

講師：高石敏子（高知市立市民図書館長 [オーテピア高知図書館]）

講師：神田正彦（浜松科学館副館長）

シンポジウム「地域から発信する博物館の未来」（分科会の総括）

報告者：岡田 直樹（高知みらい科学館学芸員）

報告者：楠瀬 慶太（高知地域資料保存ネットワーク事務局）

報告者：田所 菜穂子（横山隆一記念まんが館長）

コーディネーター：

半田昌之（日本博物館協会専務理事）

全体会議 第70回全国博物館大会決議を決定した

## 第70回全国博物館大会決議

私たちは、公益財団法人日本博物館協会主催のもと、こうちミュージアムネットワークの共催、ならびに文化庁、高知県、高知県教育委員会、高知市、高知市教育委員会の後援を得て、第70回全国博物館大会を、令和4(2022)年11月16日・17日・18日の3日間にわたり、高知県高知市で開催した。

今回もコロナ禍の影響下での開催となったが、大会には全国から約400名が参加し、博物館法改正後の博物館のあるべき姿について、地域での意欲的な取組を共有しつつ活発な議論が行われた。

私たちは、博物館制度が大きな転機を迎えるなかで、博物館が、歴史文化・自然科学等多岐にわたる文化遺産の保存継承・活用を核とする社会教育・生涯学習はもとより、文化振興を担う中核施設として、全ての人々が健康で文化的な生活を送るために不可欠な社会基盤であることを改めて確認した。

しかし、博物館が社会から求められる役割を持続的に果たすためには、個々の施設への支援や人材育成の促進等、早急に解決すべき多くの課題が残されていることを併せて認識した。その上で、課題の解決に向けては、博物館を構成する基本的な機能の一層の充実に向けた各博物館の努力とともに、博物館全体の振興を図るための多様な支援制度の整備が不可欠であることを各方面に強く訴える必要性を確認した。

ここに「地域から発信する博物館の未来」というテーマの下に開催された本大会の議論を実効あるものとするため、第70回全国博物館大会の名において下記のとおり決議する。

### 記

- 1 各博物館は、改正博物館法の趣旨を踏まえ、それぞれの特色・特性を活かした基本的機能の充実に努め、博物館同士はもとより、地域のさまざまな主体との連携の下に、利用者・社会からの期待に応え得る博物館活動を、持続的・発展的に展開するために努力する。

日本博物館協会は、改正博物館法施行後の博物館制度や支援策の在り方等について、ICOMプラハ大会で採決された新たな博物館定義に示された博物館の役割も踏まえ、各博物館とともに、国をはじめとする関係機関・団体等との連携の下に引き続き検討を進め、課題解決に向けて最大限努力する。検討に際しては、新たな登録制度の拡充とともに、登録施設へのインセンティブの付与、多様化する博物館の持続的発展に必要な、公私立博物館に対する支援の拡充、学芸員等必要な人材確保・育成、国際化の促進とともに、経営資源の確保等、その目的・役割が確実に達成できる経営基盤の強化を図るべく、関係機関等に強く協力・理解を求める。

- 2 各博物館は、引き続き新型コロナウイルス感染予防の重要性を認識し、ガイドラインを基本に各施設の規模・特性を踏まえた感染予防対策を実施し、利用者・職員の安全確保を図りつつ、安心してご利用いただける博物館運営に取り組む。

日本博物館協会は、今後とも各博物館の運営実態や課題を把握し、博物館に対する必要な支援

政策の継続等に努めるとともに、感染状況を把握し迅速に対応するため、国との連携の下に博物館の存続と持続的成長に向けた支援に取り組む。また、日本博物館協会は、コロナ禍の教訓を踏まえ、文化財・博物館資料等の保存、調査研究環境の整備等、基本的な機能の充実とともに、多様な情報発信に不可欠な、デジタル化・ネットワーク化について、全国の博物館へ広く普及させる取組等、更なる博物館への支援を、国等に強く働きかける。

- 3 各博物館は、今後の博物館活動の充実に国際的連携が不可欠であることを認識し、国際的視野に基づく人材育成や相互連携の促進に努める。また、SDGs(持続可能な開発目標)への対応をはじめ、博物館が果たすべき社会的役割を認識し、各博物館の特色を活かした活動の充実に向けて努力する。

日本博物館協会は、新たな ICOM の博物館定義の趣旨・内容を広く関係者に周知共有するとともに、各博物館の国際化への取組の推進を支援し、継続的に進展させるために、国を始めとする関係機関・団体等に対し支援・協力を要請する。

- 4 各博物館は、地震や豪雨・火災等をはじめ、多発する大規模災害における博物館・文化財の被害を防ぎ、被災した博物館や文化財の復旧・復興を支援するために相互の連携を強化する。

日本博物館協会は、国立文化財機構文化財防災センターとの連携を核とし、地域および全国的な文化財・博物館施設全体の防災体制の構築・強化に努めるとともに、国連、UNESCO、ICOM や ICOMOS をはじめとする関係国際機関との連携の下に、国際的な防災体制の強化に努める。

以上

令和4年11月17日  
第70回全国博物館大会

### 3) 全国博物館長会議の開催

博物館運営の中核である館長を対象に、博物館の運営の在り方、経営基盤の強化、効果的な事業展開、地域のニーズ・地域に対する役割等の博物館をめぐる基本的問題について、館長の理解を深め、博物館の一層の普及を図るとともに、館長のリーダーシップに対する意識、能力の向上を目的に、全国博物館長会議を文部科学省と共催で開催している。令和4年度（第29回）全国博物館長会議はオンライン方式で開催された。

主 催	文化庁・公益財団法人日本博物館協会	
開催期日	令和4年7月6日（水）	
開催方法	オンライン方式（事前申込制）	
参加者	約700名	
行政説明	文化庁博物館振興室長補佐	三木 直樹
事業説明	公益財団法人日本博物館協会専務理事	半田 昌之
報 告	日本博物館協会賞受賞館からの報告 福井県年縞博物館	
講 演	「博物館法改正の経緯・趣旨・概要及び施行に向けた日程説明」 ・文化庁博物館振興室長（文化戦略官） 井上 卓己 ・文化庁博物館振興室長補佐 三木 直樹	
個別講演	「日本のファンレイジングと長く応援してもらえる博物館になるには」 ・日本ファンレイジング協会代表理事 鵜野 雅隆 「博物館における官民連携手法の効果的な導入」 ・日本総合研究所シニアマネージャー 山崎 新太 「連携？協働？共創？地域固有の価値をつくるミュージアムの取組み」 ・乃村工藝社 公民連携プロジェクト開発2部 藤江 亮介 「デジタルアーカイブのある未来のミュージアム」 ・国立情報学研究所 名誉教授 高野 明彦	

## 2 博物館に対する支援に関する事業

### (1) 博物館利用支援機器の支給

体の不自由な人、高齢者、子育て中の人等に対し、これらの人々の文化的、知的要求に応え、豊かな生活を支援し、もって博物館利用の促進を図るため、日本宝くじ協会の助成を得て博物館利用を支援する機器の支給を行っている。

令和4年度は、ベビーカー91台、車いす98台を支給した。

令和4年度の支給先博物館は、次のとおりである。

#### (ベビーカー寄贈先博物館一覧)

配布台数 91台

札幌芸術の森美術館、苫小牧市美術博物館、北海道大学総合博物館、北海道立北方民族博物館、むかわ町穂別博物館、三沢市寺山修司記念館、スリーエム仙台市科学館、秋田県立博物館、茨城県近代美術館、足利市立美術館、栃木県なかがわ水遊園、壬生町立歴史民俗資料館、岩宿博物館、群馬県立自然史博物館、群馬県立館林美術館、原美術館ARC、戸田市立郷土博物館、千葉県立現代産業科学館、千葉県立房総のむら、国立新美術館、多摩六都科学館、地下鉄博物館、帝京大学総合博物館、東京国立近代美術館、東京富士美術館、羽村市郷土博物館、山梨県立美術館、伊豆シャボテン動物公園、MOA美術館、浜松科学館、浜松市美術館、焼津市歴史民俗資料館、徳川美術館、豊田市美術館、豊橋市美術博物館、日本モンキーセンター、碧南海浜水族館、関ヶ原町歴史民俗学習館、横須賀美術館、横浜市歴史博物館、横浜美術館、長岡市立科学博物館、新潟県立万代島美術館、新潟県立歴史博物館、魚津水族博物館（魚津水族館）、高岡市美術館、富山県交通公園交通安全博物館、安曇野市豊科近代美術館、駒ヶ根市立博物館、長野市立博物館、松本市立博物館、斎宮歴史博物館、真珠博物館、宇治市源氏物語ミュージアム、京都鉄道博物館、京都府京都文化博物館、舞鶴引揚記念館、大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）、大阪府立近つ飛鳥博物館、国立国際美術館、伊丹市昆虫館、小野市立好古館、神戸市立小磯記念美術館、神戸市立須磨海浜水族園、神戸市立青少年科学館（バンドー神戸青少年科学館）、丹波市立植野記念美術館、京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所水族館（京都大学白浜水族館）、串本応挙芦雪館、和歌山県立自然博物館、県立童謡館・鳥取世界おもちゃ館（わらべ館）、足立美術館、島根県立古代出雲歴史博物館、島根県立三瓶自然館、和鋼博物館、備前長船刀剣博物館、尾道市立美術館、呉市立美術館、大塚国際美術館、高松市美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、丸亀市立資料館、松山市坂の上の雲ミュージアム、高知県立坂本龍馬記念館、北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）、中富記念くすり博物館、御船町恐竜博物館、宮崎県総合博物館、宮崎県立美術館、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、鹿児島市維新ふるさと館、瀬戸内町立郷土館、

(91館)

#### (車いす寄贈先博物館一覧)

配布台数 98台

札幌市青少年科学館、中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館、美幌博物館、北海道開拓の村、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園、中尊寺讚衡蔵、仙台市歴史民俗資料館、東北歴史博物館、みちのく伊達政宗歴史館、小坂町立総合博物館郷土館、山形県郷土館「文翔館」、米沢



市上杉博物館、福島市古関裕而記念館、水戸市立博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、群馬県立土屋文明記念文学館、埼玉県立さきたま史跡の博物館、本庄早稲田の杜ミュージアム、市原歴史博物館、袖ヶ浦市郷土博物館、葛飾区郷土と天文の博物館、国立ハンセン病資料館、すみだ北斎美術館、世田谷区立郷土資料館、台東区立朝倉彫塑館、たばこと塩の博物館、府中市郷土の森博物館、山梨県立考古博物館、山梨県立博物館、奇石博物館、静岡市美術館、刈谷市美術館、トヨタ産業技術記念館、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、岐阜県博物館、箱根美術館、相川郷土博物館、佐渡国小木民俗博物館、佐渡博物館、新潟市美術館、両津郷土博物館、特別天然記念物魚津埋没林博物館、南砺市立福光美術館石川県七尾美術館、石川県西田幾多郎記念哲学館、小松市立博物館、小松市立本陣記念美術館、能美市九谷焼美術館「五彩館」、勝山城博物館、長野県立美術館、日本浮世絵博物館、歴史公園信州高山一茶ゆかりの里 一茶館、長浜市長浜城歴史博物館、彦根城博物館、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、八幡市立松花堂庭園・松花堂美術館、立命館大学国際平和ミュージアム、大阪芸術大学博物館、大阪市立自然史博物館、市立伊丹ミュージアム、丹波篠山市立歴史美術館、橿原市昆虫館、奈良県立美術館、奈良県立万葉文化館、寧楽美術館、大原美術館、林原美術館、ウッドワン美術館、平山郁夫美術館、福山市しんいち歴史民俗博物館、徳島市立徳島城博物館、香川県立東山魁夷せとうち美術館、金陵の郷、高知県立美術館、高知みらい科学館、芦屋町歴史民俗資料館（芦屋歴史の里）、九州国立博物館、久留米市美術館、有田陶磁美術館、佐賀県立名護屋城博物館、長崎純心大学博物館、熊本県立美術館、大分県立歴史博物館、都城島津邸、宮崎県立西都原考古博物館、鹿児島市立ふるさと考古歴史館、名護博物館、仙台市博物館、福島県文化財センター白河館、小山市立博物館、杉並区立郷土博物館、豊橋市地下資源館、神奈川県立神奈川近代文学館、安曇野市豊科郷土博物館、国立民族学博物館、徴古館、首里城公園、那覇市立壺屋焼物博物館

(98館)

## (2) 博物館総合保険

博物館利用者の安全の確保と博物館の財政的軽減を図るため、博物館総合保険に関するとりまとめ事務を行った。

令和4年度博物館来館者傷害保険及び施設賠償責任保険の加入館は、173館であった。

### <令和4年度の支給状況>

- I 施設賠償責任保険制度（施設賠償責任保険）： 0件
- II 見舞金制度（レジャー・サービス施設費用保険）： 10件

No.	事故内容	被保険者	賠償/ 見舞金
1	展示室で転倒、骨折	女性（71歳）	見舞金
2	展示室で手すりに腰掛け転倒、頭部裂傷	女性（1歳）	見舞金
3	展示室で養生用保護フィルムに足を取られ転倒	女性（2歳）	見舞金
4	トイレ扉の下部金具に足を引っ掛け負傷	女性（小学生）	見舞金
5	展示室で転倒、骨折	男性（6歳）	見舞金
6	ワークショップ中、熱湯の入った鍋に手を入れてしまい火傷	男性（2歳）	見舞金

No.	事故内容	被保険者	賠償/ 見舞金
7	多目的室で着座している際に、座面から滑り落ち、臀部を床に打った、尾骨骨折	女性（ 79 歳）	見舞金
8	階段踊り場の段差に気づかず、足を踏み外し捻挫	女性（ 30 代）	見舞金
9	イベント参加中、着座していた椅子に足をのせ、後方に回ろうとして足が滑りバランスを崩し転倒、打撲	女性（ 45 歳）	見舞金
10	展示物付近の床に躓き、展示物の角に前頭部を打ち付け出血	女性（ 7 歳）	見舞金

### 3 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業

#### (1) 博物館登録制度の在り方に関する調査研究

令和4年4月に改正博物館法が公布され、令和5年4月の施行の準備が進められる中で、引き続き文化審議会博物館部会への参画を中心に、今後の博物館制度のあり方、博物館振興について積極的に取組んだ。また、法改正施行に向けて文化庁が実施した公募型の委託事業「新登録制度実行のための体制の検討・整備に係る検証・普及事業」を受託し、全国の博物館・教育委員会等関係者への改正法の概要や登録手続き等に関する説明をはじめ、広く制度の周知・理解を図るため、文化庁のウェブサイト「博物館総合サイト」の開設と運用等を行い、改正法施行に向けた基盤整備に対し、博物館全体の調整機関として一定の役割を果たすことができた。

また、ICOM 規定における博物館定義の見直しに関して、本部から示された最終の定義案について、役員はじめ会員の意見を反映させつつ検討を行い、日本委員会としてまとめた意見を提出した。なお、最終案は8月に開催された ICOM プラハの臨時総会において投票による採決が行われ、92.4%の賛成を得て採択された。その後、日本委員会として採択された定義の仮訳を作成し、会員からの意見聴取の機会を設けたうえで正訳を決定し公表した。

#### (2) 博物館総合調査の実施

概ね5年を目途に、日本の博物館の実態を把握するため、昭和49年以降実施してきた「博物館総合調査」については、博物館法改正に対する衆参両院での審議等でも、博物館の運営実態を示す資料として多用され、調査の重要性が再確認されたことも踏まえ、次回調査の実施時期を令和5年度から6年度に設定し、今年度は、委員会の構成等、実施に向けての基本的な整理や準備作業を実施した。

#### (3) 出版物等による情報の提供

博物館関係者に対し、博物館運営や活動に関する新たな企画・立案や他の博物館等との連携事業の推進を図るため、博物館にかかわる調査研究成果や博物館に関する法令・基準、博物館専門職員名簿等の博物館運営や活動に関する基礎的な資料及び情報を提供する事業を行っている。

令和4年度の出版物等による情報の提供等は次のとおりである。

- ・「全国博物館総覧」の編集
- ・「令和4年度版全国博物館園職員録」の作成・頒布
- ・既出版図書・「博物館研究」バックナンバーの頒布

## 4 博物館関係者に対する資質向上に関する事業

### (1) 研究協議会・シンポジウム等

令和4年度も、前年度に引き続きコロナ禍の影響を被り、集会形式での研究協議会を実施することはできなかったが、令和5年4月からの改正博物館法施行を目前に控え、時宜を得て、フォーラム「改正博物館法施行間近！ ～現場の視点で改正法のポイントを考える～」(3月4日)をオンライン形式で開催した。全国の博物館職員、関係者にとどまらず博物館登録事務に従事する都道府県等教育委員会にも呼びかけた結果、600名からの参加者が集い、4月1日から施行される改正博物館法の概要、改正のポイントを理解し共有するとともに、文化審議会博物館部会の答申等を踏まえ、今回の法改正を機に、今後、博物館が基本的機能の充実と併せて、求められる役割をより積極的に果たし、活動の充実を図るために、博物館運営に求められる取組みや今後の展望について、現場の視点からの発表を中心に議論を深めることができた。集会形式での普及・啓発事業の開催が難しい状況が続く中で、オンライン環境を利用したフォーラムを開催することで、多くの参加者の確保と的確な情報発信が可能となり、今後もオンライン環境を利用した研修実施が通例になると見込まれる。

### (2) 美術品梱包輸送技能取得士認定試験

博物館や美術館の美術品の取扱い、特に梱包や輸送の技能や知識の継承とともに、博物館における競争入札の導入による美術品の毀損等による事故を防止し、後継者を養成することで、美術品取扱いの知識や技能の維持・向上を図るため、平成20年度における「美術品取扱い技術等にかかわる委員会」を設置、検討に着手した。以後、平成26年度からは3級・2級・1級試験を本格実施している。令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の影響を受けて変則的な形で開催してきた。

令和4年度はやや感染状況が緩和したことにより、1級試験は予定通り8月に実施、2月には2級・3級試験を実施した。なお、試験会場の東京国立博物館の改修工事の影響で、2級および3級の試験については、それぞれ1日ずつに振り分けて開催した。

#### < 3級認定試験 >

試験日	令和5年2月18日(土)
試験時間	10時00分から15時30分
試験場所	東京国立博物館 平成館(小講堂、第1会議室～第4会議室) 黒田記念館 セミナー室
受験者	31名 合格者 24名 不合格者 7名

試験科目 実技試験（額装および掛物/陶器）、筆記試験（筆記免除 8名）

< 2級認定試験 >

試験日 令和5年2月19日（日）

試験時間 10時00分から17時00分

試験場所 東京国立博物館 平成館（小講堂、第1会議室～第4会議室）  
黒田記念館 セミナー室

受験者 41名 合格者 28名 不合格者 13名

試験科目 実技試験（茶道具/陶器）、筆記試験、口頭試問

< 1級認定試験 >

試験日 令和4年8月6日（土）

試験時間 10時00分から17時30分

試験場所 東京国立博物館平成館 会議室

受験者 10名 合格者 3名 不合格者 7名

試験科目 筆記試験、口頭試問

（3）顕彰事業

1）博物館功労者表彰

博物館功労者顕彰規程第2条に基づき、博物館活動に貢献のあった博物館関係者に対し顕彰を行っている。（同条第1号：日本博物館協会又は博物館に20年以上にわたり永年勤続し、他の模範となる者、第2号：協会又は博物館の事業に対し、顕著な功績のあった者、第3号：協会又は博物館の防火、防災等に挺身し、功労のあった者、第4号：協会又は博物館に対し、多額の金品を寄附した者。）令和4年度は、第1号の該当者56名、第2号の該当者1名、第4号の該当者2名に対し顕彰を行った。

2）棚橋賞、博物館活動奨励賞

我が国における博物館学研究の先駆者である故棚橋源太郎氏の功績を記念し、月刊誌「博物館研究」の優秀論文の著者に対し「棚橋賞」を、優れた実践報告に「博物館活動奨励賞」を贈呈しており、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員会での審議の結果、令和4年度の棚橋賞、博物館活動奨励賞の受賞者は次のとおりであった。

棚橋賞

受賞者：伴 和幸氏（豊橋総合動植物公園・研究員／Wild meät Zoo・理事）

受賞論考：「なぜ動物園で駆除された動物を餌として利用するのか？—廃棄物の利用で終わらせないために」

博物館活動奨励賞

受賞者：渡辺 友美氏（東海大学教職資格センター講師）

受賞論考：「ダンボール什器を活用した巡回展活動から特別展のゴミ問題を考える」

受賞者：武田 周一郎氏・千葉 毅氏（神奈川県立歴史博物館学芸員・主任学芸員）

受賞論考：「収蔵庫の浸水を想定した資料搬出訓練の実践と課題」

顕彰等は、令和4年11月16日の第70回全国博物館大会開会式において表彰が行われた。

### 3) 日本博物館協会賞

昨年度受賞が決定した第3回日本博物館協会賞（以下、協会賞）受賞館である大原美術館の授賞式を第70回全国博物館大会の開会式で行った。

第4回協会賞の選考委員会（委員長：栗原祐司理事、委員6名）を令和5年2月22日に黒田記念館セミナー室で開催した。検討の結果、明石市立天文科学館が選ばれ、第37回理事会で承認された。同館は令和6年9月にクロアチア・ドブロブニクで開催予定の「Best in Heritage」への日本からの参加施設として推薦される。

協会賞受賞館は受賞翌年の全国博物館長会議で館の活動内容につき発表することが決まっており、第3回協会賞受賞の大原美術館が令和5年度全国博物館長会議（令和5年7月5日開催予定）で発表することとなった。

## 5 博物館の国際交流に関する事業

### (1) 「国際博物館の日」に関する事業

ICOM（国際博物館会議）が提唱する「国際博物館の日」の事業として、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールし、博物館の普及を図るため、5月18日の「国際博物館の日」を中心に、共通テーマである「博物館の力：私たちを取り巻く世界を変革する」に基づき、全国の博物館に記念事業の実施を呼びかけた。結果的には、全国の122館/園で190件の教育普及プログラムや入館料減免、記念品贈呈などの行事が実施された。

5月22日には、国際博物館の日記念シンポジウムを東京国立博物館で開催した。「博物館の力：私たちを取り巻く世界を変革する」をテーマとして、事例発表、地域の若手学芸員と青柳委員長の対談のほか、ICOM プラハ大会の概要紹介等を実施し、会場には105名が参加し、また開催後にオンデマンド配信を行い754回視聴された（4月末現在）。

### (2) 国際化・情報発信力の強化

ICOM 日本委員会の公式ホームページとともに、Facebook も活用しつつ、国内の博物館の様々な取組みに関する現場からのレポートや、プラハ大会に関する状況、ICOM「博物館の定義」の見直しなどを含め、内外の博物館に関する最新の情報を日英2か国語で発信した。

### (3) その他の国際交流事業

コロナ禍の影響により多くの国際会議がオンラインで開催される傾向は続いた一方で、8月には ICOM プラハ大会が史上初のハイブリッド形式で開催され、プラハの会場に約 2,000 人、オンラインで約 1,600 人が参加した。日本からも 20 数名が現地で大会に参加した。こうした状況の下で、2ヶ年度にわたり実施されずにいた文化庁の令和 4 年度「博物館機能強化推進事業（学芸員等在外派遣研修事業の企画・運営）」を受託し、学芸員等の海外博物館等での研修や国際会議への出席等を支援し、結果としては、研修等の派遣が 5 名、ICOM プラハ大会等国際会議への参加が 10 名の合計 15 名を、補助金を活用し海外へ派遣することができた。また、その他必要に応じてオンライン会議等へ出席するとともに、ICOM の博物館セキュリティ国際委員会（ICMS）の日本委員会が取組んでいる継続的なオンライン研修会等への協力を行った。

例年日本から推薦を行っている Best in Heritage については、日本博物館協会賞を受賞した福井県年縞博物館を推薦したが、令和 3 年度と同様に現地（クロアチア）での会議・授賞式は開催中止となり、オンラインでの発表が行われてウェブサイトで紹介された。

## 6 その他の事業

### (1) 地区博物館活動への支援

各地区単位の博物館の会議に共催者等として、専務理事等の派遣及び情報提供等の支援を行う事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4 支部総会は書面開催であったが、6 支部総会は現地にて開催された。またホームページへの情報掲載やメール配信等を活用して情報共有に努めた。

### (2) 大規模災害関係支援事業の実施

#### 1) 文化遺産防災ネットワーク推進会議への参画

国立文化財機構による文化遺産防災ネットワーク推進会議の構成団体（幹事団体）として、同会議及び防災関連のシンポジウム等への出席等をとおして、博物館の防災に関する情報の共有に努めるとともに、日博協 10 支部の自然災害による文化財被災状況の情報共有を図った。

#### 2) 大規模災害で被災した博物館・文化財への支援活動への参加及び支援金の募集

東日本大震災の復興支援とともに令和元年度 9 月～10 月にかけて襲来した台風 19 号による大規模水害に伴い発生した博物館関連の被害について、長野市立博物館では、市民ボランティアの方々が、また川崎市民ミュージアムについては、都内の博物館の方々にレスキュー活動にご参加いただいている。

#### 3) Innovate MUSEUM 事業への参画

平成 26 年度から継続実施している、陸前高田市立博物館の復興、被災資料の修復を支援するための文化庁助成事業について、今年度からは岩手県立博物館を中核館として「東北発 博

物館・文化財等防災力向上プロジェクト」として、東北地域を中心とする広域の防災ネットワークの形成による、防災・減災についての課題解決を目指す新たなコンセプトの下で展開した。

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、当初予定した計画の全てを実施することはできなかったが、会議やワークショップ等の開催にオンラインを積極的に活用した事業を展開するとともに、令和4年11月に開館した陸前高田市立博物館を中心に、市民との協働によるワークショップ等を開催し、今後への展望を得ることができた。

#### 4) 新型コロナウイルス感染防止に関する対応

##### ① 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインの改定

政府の指針に則り「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の適切な改定等を行った（令和4年9月8日版、令和5年3月13日版）。その時の社会状況に応じて、博物館現場の感染予防対策の在り方や、館運営の参考となるよう、相談対応や助言を行える体制を整えた。

##### ② 文化庁感染症対策事業受託

文化庁より令和4年3月24日に受託した「文化施設の活動継続・発展等支援事業（博物館等）」の運営業務を遂行するために、令和2年度開設した感染症対策支援室を継承し、派遣社員3名を雇い入れて博物館への補助金受給の窓口業務を行い、196件112百万円が採択された（受託期間令和5年3月31日まで）。

## 7 会議等

令和4年度は、次のように理事会及び評議員会等を開催した。

### <理事会>

#### 第33回理事会

開催日 令和4年6月3日（金）

開催方式 黒田記念館 セミナー室

#### 議 題

- 1 令和3年度事業報告及び収支決算について (第1号議案)
- 2 参与の選任について (第2号議案)
- 3 第70回全国博物館大会の開催について (第3号議案)
- 4 ウクライナ募金の公益認定申請について (第4号議案)
- 5 定時評議員会招集及び提出議案について (第5号議案)
- 6 報告事項
  - ① 新入会員・退会会員について
  - ② 職務執行状況の報告について
  - ③ 博物館法改正に関する最近の動きについて
  - ④ ICOM プラハ大会について
  - ⑤ ICOM ミュージアムの定義見直しについて

- ⑥ 新型コロナ感染症緊急アンケート調査結果
- ⑦ 新型コロナ感染症対策ガイドライン見直し等について
- ⑧ その他

#### 第34回理事会（臨時）

開催日 令和4年6月20日（月）

開催方式 ZOOMによるオンライン会議

##### 議 題

- 1 理事（新任）の評議員会への推薦（第1号議案）

#### 第35回理事会（臨時）

半田昌之専務理事から、本協会定款第36条に基づく理事の全員による書面による同意の意思表示を求める提案があり、令和4年8月25日、下記の議題に関し書面により諮り、同9月8日、全員から承認の回答を得た。

##### 議 題

- 1 令和4年度顕彰候補者の承認について
- 2 令和4年棚橋賞受賞者の承認について
- 3 令和4年博物館活動奨励賞受賞者の承認について
- 4 令和4年度（6月3日～8月26日）新入会員・退会会員の報告について

#### 第36回理事会（臨時）

銭谷会長（代表理事）より令和4年11月2日に辞任届が提出されたことを受け、11月4日に銭谷会長、半田専務理事連名で山梨絵美子理事を推薦する旨の提案書を理事及び幹事全員に送付した。当該提案について令和4年11月14日までに理事全員から同意の意思表示を、監事全員から異議がないとの意思表示を得たことから、本法人定款第36条に基づく理事会決議の省略の方法により当該提案を承認可決する旨の決議がなされた。

#### 第37回理事会

開催日 令和5年3月15日（水）

開催方式 黒田記念館セミナー室及びZOOMによるオンライン会議

##### 議 題

- 1 令和5年度事業計画及び収支予算案について（第1号議案）
- 2 理事の改選について（第2号議案）
- 3 第4回日本博物館協会賞選考結果について（第3号議案）
- 4 第71回全国博物館大会（千葉大会）開催について（第4号議案）
- 5 2023年国際博物館の日シンポジウム開催について（第5号議案）



## 6 報告事項

- ① 新入会員・退会会員について
- ② 職務執行状況報告について
- ③ 「博物館研究」2023年度特集テーマについて

### <評議員会>

#### 第11回評議員会

開催日 令和4年6月24日（金）

開催方式 黒田記念館セミナー室及びZOOMによるオンライン会議

#### 議 題

- 1 令和3年度事業報告及び収支決算について (第1号議案)
- 2 理事（新規）の選任について (第2号議案)
- 3 報告事項
  - ① 令和4年度事業計画及び収支予算について
  - ② ウクライナ募金の公益認定申請について
  - ③ 博物館法改正に関する最近の動きについて
  - ④ 第70回全国博物館大会の開催について
  - ⑤ 第3回日本博物館協会賞受賞館について
  - ⑥ 新型コロナウイルス感染症緊急アンケート調査結果
  - ⑦ 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン見直し等について
  - ⑧ ICOM プラハ大会について
  - ⑨ ICOM ミュージアムの定義見直しについて

### <委員会>

日本博物館協会の円滑且つ適正な運営を確保するため、日本博物館協会支部長会（1回）、日本博物館協会参与会（1回）を設けているが、令和4年度はコロナ感染症対策として黒田記念館セミナー室及びオンライン（ZOOM）を用いたハイブリッド開催とした。

また、日本博物館協会の事業を適正に推進するため、博物館研究企画編集委員会（1回）、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員会（1回）、博物館功労者選考委員会（1回）、日本博物館協会賞選考委員会（1回）を開催した。